

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年8月9日

【四半期会計期間】 第87期第1四半期(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

【会社名】 株式会社加地テック

【英訳名】 KAJI TECHNOLOGY CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 鈴木 博 士

【本店の所在の場所】 大阪府堺市美原区菩提6番地

【電話番号】 072(361)0881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 上 田 成 樹

【最寄りの連絡場所】 大阪府堺市美原区菩提6番地

【電話番号】 072(361)0881(代表)

【事務連絡者氏名】 常務取締役 上 田 成 樹

【縦覧に供する場所】 株式会社加地テック東京支社
(東京都江戸川区臨海町三丁目6番4号 ヒューリック葛西臨海ビル4階)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第86期 第1四半期 累計期間	第87期 第1四半期 累計期間	第86期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年6月30日	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	901,143	1,057,633	5,407,014
経常利益又は経常損失() (千円)	20,164	67,748	250,770
四半期純損失()又は当期純利益 (千円)	14,034	44,276	158,877
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	1,440,000	1,440,000	1,440,000
発行済株式総数 (株)	1,718,000	1,718,000	1,718,000
純資産額 (千円)	5,730,205	5,791,890	5,902,196
総資産額 (千円)	7,840,877	8,336,559	8,273,937
1株当たり四半期純損失()又は1株当たり当期純利益 (円)	8.48	26.75	95.98
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)			
1株当たり配当額 (円)			40.00
自己資本比率 (%)	73.1	69.5	71.3

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については、記載しておりません。

2 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3 第86期第1四半期累計期間及び第87期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4 第86期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5 持分法を適用した場合の投資利益については、対象となる関連会社がないため記載を省略しております。

2 【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、改元や大型連休による内需の改善はあったものの、米中貿易摩擦の激化や中国経済の減速等を起因とした外需の悪化により、停滞感の強い状況が続いています。

日銀短観(2019年6月調査)によれば、2019年度の設備投資計画(全規模・全産業)は、前年度比2.3%増と例年と比べれば小幅な上方修正となっています。また、経常利益計画(全規模・全業種)は、前年度比4.3%減と3月調査から1.8%下方修正されており、前述した海外情勢の懸念に加え、IT需要の停滞や深刻化する人手不足などを背景に先行き見通しは悪化しています。

このような状況下にもかかわらず、当第1四半期累計期間における当社業績は、海外市場における石油精製・石油化学案件が増えたこと等により、売上高は前年同期比17.4%増の1,057百万円となりました。また、水素ステーション案件は、順調に受注を重ねております。しかしながら圧縮機市場全体で競争が激化しており、採算の厳しい案件が増えたため、売上総利益は前年同期比7.0%減の217百万円となりました。販売費及び一般管理費においては、電気化学式水素ポンプの開発等、新製品開発の推進による研究開発費の増加等により、前年同期比11.4%増の286百万円となり、営業損失は68百万円(前年同期は営業損失23百万円)、経常損失は67百万円(前年同期は経常損失20百万円)となりました。また、前年度に引き続き、2018年9月の台風21号により被災した工場等の修繕費用を特別損失として54百万円計上しておりますが、それに係る保険会社より提示のあった受取保険金57百万円を特別利益に計上しており、結果として四半期純損失は44百万円(前年同期は四半期純損失14百万円)となりました。当社事業の特性上、売上高は下期に偏る傾向が強く、上記結果は当初からある程度想定しており、業績は概ね予定通り推移しております。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期会計期間の総資産は、8,336百万円で前事業年度に比べ62百万円増加しました。この主な要因は、固定資産の増加73百万円があったことによります。

当第1四半期会計期間の負債は、2,544百万円で前事業年度に比べ172百万円増加しました。この主な要因は、賞与引当金の減少67百万円があったものの、流動負債その他の増加247百万円があったことによります。

当第1四半期会計期間の純資産は、5,791百万円で前事業年度に比べ110百万円減少しました。この主な要因は、剰余金の配当66百万円及び四半期純損失の計上44百万円により、利益剰余金が110百万円減少したことによります。

以上の結果、自己資本比率は69.5%となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期累計期間の研究開発費の総額は32百万円であります。

なお、当第1四半期累計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,600,000
計	3,600,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (2019年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年8月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,718,000	1,718,000	東京証券取引所 市場第二部	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株 式であり、単元株式数は100 株であります。
計	1,718,000	1,718,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2019年4月1日～ 2019年6月30日		1,718,000		1,440		1,203

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、直前の基準日(2019年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2019年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 62,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,646,300	16,463	
単元未満株式	普通株式 9,100		
発行済株式総数	1,718,000		
総株主の議決権		16,463	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式67株が含まれております。

【自己株式等】

2019年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社加地テック	大阪府堺市美原区菩提6番地	62,600		62,600	3.65
計		62,600		62,600	3.65

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(2007年内閣府令第63号。以下「四半期財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は、子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	555,874	705,518
受取手形	688,670	838,827
売掛金	1,789,260	1,000,229
製品	8,540	13,380
仕掛品	1,105,302	1,353,889
原材料及び貯蔵品	325,843	362,146
預け金	2,500,000	2,600,000
その他	118,376	202,556
貸倒引当金	20,100	15,500
流動資産合計	7,071,768	7,061,049
固定資産		
有形固定資産	748,210	785,872
無形固定資産	39,862	60,496
投資その他の資産		
その他	415,495	430,540
貸倒引当金	1,400	1,400
投資その他の資産合計	414,095	429,140
固定資産合計	1,202,168	1,275,509
資産合計	8,273,937	8,336,559
負債の部		
流動負債		
支払手形	780,766	849,538
買掛金	295,120	248,483
短期借入金	50,000	50,000
未払法人税等	76,189	8,400
前受金	45,334	43,116
賞与引当金	137,085	69,992
受注損失引当金	130,000	175,100
その他	265,948	513,243
流動負債合計	1,780,445	1,957,874
固定負債		
退職給付引当金	564,164	559,664
その他	27,130	27,130
固定負債合計	591,294	586,794
負債合計	2,371,740	2,544,669

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,440,000	1,440,000
資本剰余金	1,203,008	1,203,008
利益剰余金	3,367,988	3,257,498
自己株式	108,528	108,528
株主資本合計	5,902,467	5,791,977
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	271	87
評価・換算差額等合計	271	87
純資産合計	5,902,196	5,791,890
負債純資産合計	8,273,937	8,336,559

(2) 【四半期損益計算書】
【第1四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	901,143	1,057,633
売上原価	667,450	840,270
売上総利益	233,693	217,362
販売費及び一般管理費	257,004	286,218
営業損失()	23,310	68,855
営業外収益		
受取利息	2,006	1,889
為替差益	306	-
その他	995	569
営業外収益合計	3,308	2,459
営業外費用		
支払利息	85	70
固定資産除却損	75	426
為替差損	-	856
その他	0	0
営業外費用合計	162	1,353
経常損失()	20,164	67,748
特別利益		
受取保険金	-	57,796
特別利益合計	-	57,796
特別損失		
災害による損失	-	54,124
ゴルフ会員権退会損	300	-
特別損失合計	300	54,124
税引前四半期純損失()	20,464	64,076
法人税等	6,430	19,800
四半期純損失()	14,034	44,276

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(2018年9月4日の台風21号による被害の発生)

2018年9月4日の台風21号の影響による被害を受けたことに伴い、当第1四半期累計期間において、「災害による損失」として事業資産の修繕費用等54,124千円を特別損失に計上しております。なお、当該計上額については、現時点における合理的な見積りに基づいて計上しておりますが、当社の見積りと実績が異なった場合、当該計上額は今後変動する可能性があります。

また、台風に係る保険金額として保険会社から提示を受けた金額57,796千円を「受取保険金」として特別利益に計上しております。

(四半期貸借対照表関係)

四半期会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期会計期間末日満期手形が、四半期会計期間末残高に含まれております。

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2019年6月30日)
受取手形	31,968千円	21,823千円

(四半期損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
減価償却費	21,759千円	19,018千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年5月23日 定例取締役会	普通株式	利益剰余金	99,321	60.00	2018年3月31日	2018年6月29日

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年4月26日 定例取締役会	普通株式	利益剰余金	66,213	40.00	2019年3月31日	2019年6月28日

2. 基準日が当第1四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(デリバティブ取引関係)

四半期財務諸表等規則第10条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(持分法損益等)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

当社は「圧縮機事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第1四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

当社は「圧縮機事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)
1株当たり四半期純損失()	8円48銭	26円75銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失()(千円)	14,034	44,276
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純損失()(千円)	14,034	44,276
普通株式の期中平均株式数(株)	1,655,333	1,655,333

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年8月9日

株式会社加地テック
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮本 敬久 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 前田 俊之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社加地テックの2019年4月1日から2020年3月31日までの第87期事業年度の第1四半期会計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)及び第1四半期累計期間(2019年4月1日から2019年6月30日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社加地テックの2019年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。